

平成28年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	会派のぞみ（文責：湊 猛）	支出伝票No.	
事 業 名	第14回スローライフまちづくり全国都市会議		
事業区分（該当へ○）	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

- 清水國明氏の講演「自然の中でヒトになる」
- 加盟市町首長による意見交換
- 大野市内視察

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日時 平成28年10月11日14時00分 ～ 平成28年10月12日13時00分	訪問先・主催者等 福井県大野市
-------------------------------	---	--------------------

報
告
内
容
・
実
施
し
た
こ
と

1 視察先（市町村等）の概要

福井県大野市

人 口：35,024 人 面 積：872.43 km² 議員数： 18 名

2 視察内容

(1)平成28年10月11日 オリエンテーション開催

ア スローライフまちづくり全国都市会議議員の会

前会長 大野通氏あいさつ、平成27年度決算・平成28年度予算について承認される

イ 基調講演 演題「自然の中でヒトになる」

講師：清水國明氏 … 越前おおの市のブランド大使、現在独身

原田伸郎氏とのフォークソングデュオ「あのねのね」でデビューし、「赤とんぼの唄」以来テレビやラジオで活躍する芸能界きってのアウトドア派として知られている。

自然体験イベントや環境講演会等で活躍されている。

「自然暮らしの会」の代表を務め、2003年には山梨県河口湖町へ移住したり、無人島生活も実行されている。

ウ 意見交換会 テーマ「スローライフとまちづくり」

コーディネーター：福井県立大学地域経済研究所 南俣勝教授

11市町村の取り組みについて発表され、飯田市も「焼き肉の街」を紹介（日本一の飯田市をアピール）した。

エ 意見交換会終了後、「平成28年 第14回スローライフまちづくり大野宣言」を採択。



清水國明氏による基調講演



意見交換会の様子

(2) 平成 28 年 10 月 12 日 大野市内視察

ア 国土交通省真名川ダム ダム堤体内の研究

イ 本願清水イトヨの里館内視察 (パワーポイントおよびビデオ説明)

ウ まちなか視察 結ステーション周辺 (大野城が見える周辺)



イトヨの里館内での説明状況



御清水説明

1 基調講演

(1) 本物を知る (田舎暮らし)

自然の中で楽しさを知ることが大切である。生活様式、特にその人の個性を表すような生きかた。

(2) スローライフ (自給・自足) では、時間やお金ではなく、一歩はずれた生活や生きているプロセスを楽しむことで、いらいらしない生きかたを満喫する。

(3) 国・県・市においても、地元産材を活用したログハウス化したトレーラーハウスが必要に思われる。災害・震災時に活用できる仮設住宅をつくるのではなく、常時備えたトレーラーハウスを数多く用意する。(現場 ⇒ 被災地へ 2 日～3 日の間に届け設置することができる)

2 11 市町の取り組み

(1) 大野市「水への恩返し」 ⇒ 浄水文化が継承されている

(2) 岐阜市「歩いて出かけられるまちへ」

魅力的なまちを目指して懸命に努力している。

スローライフの取り組みとして、

ア スローインダストリー … 岐阜の和傘

イ スローな笑い …………… 全日本学生落語選手権

ウ スローなフード …………… 地産地消

エ スロー川遊び …………… 1,300 年の伝統 長良川鶴飼い

なんといっても、織田信長公のおもてなし (楽市) が息づく城下町であると感じた。

また、車の依存から公共交通機関へ、全 22 地区へ地域住民が主体となって運営されている。

連節バスも 4 台導入されている。

(3) 宮城県加美町「音楽のまちづくり」(平成 29 年開催地)

2017 年には国立音楽院が誘致される。

飯田市においても音楽とアウトドア ⇒ 飯田市の構想も必要に思われる。

(4) 鳥取に移住すると健康になる。体力年齢が 1.8 歳若返ったと鳥取大学による調査研究結果が発表された。飯田市においても健康の関係で活用できればと思われる。

感想(まとめ)・市に活かせること等

(3) この事業実施後の対応及び方向性

○会派のぞみの「平成 29 年度予算編成に関する提言」の参考とした。

○引き続き、会派として調査研究を継続する。

平成28年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	会派のぞみ (文責：吉川 秋利)	支出伝票No.	
事 業 名	里山資本主義的地域活性化		
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

里山資本主義は「お金が乏しくなっても水と食料と燃料が手に入り続ける仕組み、いわば安心安全のネットワークを、あらかじめ用意しておこうと言う実践」であると言われている。即ち、「現在のマネー経済だけでなく、地域の過疎化、少子化・高齢化に対処する地域戦略」と言える。この取組状況を調査・研究し、飯田市に生かせる事が出来ればと考える。

(2)実施概要

	日時	訪問先・主催者等
調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	平成28年10月24日(月) 13時30分～15時00分	北広島町役場 芸北支所 成瀬哲彦 支所長 特NPO 西中国山地自然史研究会近藤紘史理事長 芸北せどやま再生会議 上田耕史 場長 曾根田利江 氏 芸北オークガーデン 河野正記 社長 北広島町議会事務局 松浦誠 事務局長

1 視察先(市町村等)の概要

- (1) 広島県山県郡北広島町川小田10075番地5 北広島町役場 芸北支所
 (2) 広島県山県郡北広島町細見10145-104 芸北オークガーデン

2 視察内容

- (1) 北広島町役場 芸北支所において概要説明を受ける。

ア 里山(裏山)の広葉樹を伐採して持ち込むと、1トン当たり6000円相当の地域通貨「せどやま券」がもらえる。

イ 地域通貨「せどやま券」の単位は1000石で1000円に値し、商店や食堂、温泉、給油所などで使える。有効期限は6か月で最大5回までの使用ができる。使用に当たっては、1000円単位で切り上げとなり、差額は森林活動への寄付扱いとなる。

ウ セどやま再生事業に登録しているのは65人であるが、実質的には10人程度が活動している。

定期的に「せどやま市場」を開いて広葉樹の受け入れを行っている。里山の所有は民地が多く、切り出すにはまだまだ十分な広さがある。だんだんと奥山に行くことになるが、この地域は除雪も必要なため、重機を持っており搬出には問題ない。

エ 受け入れた木は薪、シイタケのほだ木、ボイラー用の薪等流通を図っている。チップ材として町外の向上へ売ることもある。



3年間の事業成果

★ 木の受入：広葉樹 1,090t	★ 森林整備の推進 → 生態系：Ecology
★ 薪などの販売：総量 1,281t	★ 再生可能資源の利用促進 → エネルギー：Energy
★ セどやま券の発券：7,095千円分	★ 地域経済への貢献 → 経済：Economy
★ 行政からの助成金：約5,500千円	

報告内容・実施したこと

(2) セドやま市場において薪の加工工場、乾燥工程の視察

ア 屋根付きの工場内で薪への加工を行っている。芸北せどやま再生会議の曾根田利江さんは女性であるが1日当たり1トンの薪加工を行っている。家庭用の薪製造工程を担当。

イ 芸北オークガーデンが担当する薪製造工程があり、ボイラー用の薪であり長さもあり割り方も、太めであった。加工治具などは全て自分で製造している。

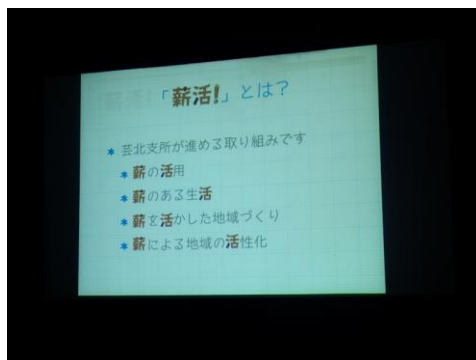


(3) 「薪活」と言う事で芸北オークガーデンが経営（3セク）するボイラーの視察

ア 芸北温泉の熱源補給として、木質バイオマス薪ボイラーを導入した。スキーシーズンなどで熱量が必要となる場合には重油ボイラーを併用するが、薪ボイラー7割、重油ボイラー3割の稼働である。

イ 森林整備加速化・林業再生基金事業と言う補助事業であるため、広葉樹（コナラ）ばかりでなく、針葉樹も使用が義務付けられるため「林家さん」と言う林業関係者の協力が欠かせないものとなっている。

ウ 事業としては4年目を迎え。企業としては2名であるが、この町の基幹産業と言える。



3 まとめ

「里山資本主義」と言う藻谷浩介さんの提唱する考え方に対して、異論を唱える人たちもいる中、予習もして臨んだわけだが、理論的なことではなくて具体的な事例から学ぶことになった。

- （１）「せどやま券」の大きな利点は、地域通貨であるために、地消のみに使われる。即ち外部地域では使えないため、資金が流出することは無いと言う大きなメリットがある。
- （２）「現在のマネー経済が基本にあつて、その上に燃料を確保することによる豊かさを加えている」と言う受け止め方をした。従って、この事業が行き詰っても、生活に打撃を与えるようなことはなく、スローライフとは異なった観点であり、「笑顔つなげて」の様な事業拡大を目指してはいない。
- （３）小さな町の活性化には寄与しても、飯田市に生かすことはできないと思う。この視察の間に藻谷浩介さんの講演会が飯田市で開催されたようであるが、再生可能エネルギーの活用については更なる検討が必要と思う。

（３）この事業実施後の対応及び方向性

○会派のぞみの「平成 29 年度予算編成に関する提言」の参考とした。

○引き続き、会派として調査研究を継続する。

平成28年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	会派のぞみ (文責：清 水 勇)	支出伝票No.	
事 業 名	おのみち幸齢プロジェクト		
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費	②研修費	③広報費
	④広聴費	⑤陳情等活動費	⑥会議費
	⑦資料作成費	⑧資料購入費	⑨人件費
	⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

尾道市の超高齢化社会への対応事業「おのみち幸齢プロジェクト」の取組、事業内容を視察、研究して飯田市における高齢社会のありかたや対応、他の施策事業に対する対応に活かす為に取り組む。

(2)実施概要

調査・研修の場合の	日 時	訪問先・主催者等
実施日時と 訪問先・主催者	平成 28 年 10 月 25 日 (火) 9 時 00 分～ 10 時 30 分	尾道市役所 企画財務部 政策企画課 協働推進係

1 視察先 (市町村等) の概要

広島県尾道市, 285, 09 km²・広島県東南部瀬戸内海のほぼ中央に位置し, 山陽自動車道・瀬戸内しまなみ街道・中国やまなみ街道により広域拠点としての機能は高まりつつある, 「瀬戸内の十字路」としての発展が大いに期待される地域

- ・人口動態 H28 年 3 月人口 141, 878 人 (男 : 68, 254 人, 女 : 73, 624 人)
H18 年 3 月人口 152, 746 人 (男 : 72, 495 人, 女 : 80, 251 人)
高齢化率 33, 3% (広島県 : 26, 6%, 国 : 25, 6%)
- ・議会 議員数 29 人 (女性 : 1 人) 報酬・議長 52 万・副議長 48 万・議員 45 万

2 視察内容

・尾道市の高齢化率は国を大きく上回り一刻の猶予もない状況となり, また増え続ける社会保障費の問題解決のために, プロジェクトチームを組織し・短期間で提言書をまとめた, 「おのみち幸齢プロジェクト」の取組状況と提言内容について視察をした

(1)「おのみち幸齢プロジェクト」実施の経緯と取組みまでの経過

- ・H25 年 8 月, 副市長よりトップも超高齢社会への対応が喫緊の課題であり既存の組織では, 対応の限界である (セクショナリズム, 柔軟性, スピード感), 12 月末までの 3 か月で, ひとつでもふたつでもよいから, 実現可能性のある具体的な施策をまとめて欲しい (やり方は任せる)
高齢者福祉課, 西門正則氏が依頼されリーダーとなり取組む
- ・プロジェクトチームを組織
高齢者福祉課 : 西門正則 (リーダー)・福本真弓, 環境政策課 : 藤原一宏, 健康推進課 : 元谷那美・, 市民税課 : 田頭麻鼓・村上美恵子, 情報システム課 : 角誠, 総務課 : 新宅正章・・・8 名
- ・尾道市超高齢化対策プロジェクトチーム規約作成 H25. 9. 1 から施行する

(2)「おのみち幸齢プロジェクト」のねらい, 取組までの苦心・苦労

- ① ねらい
休息な高齢化の進展に危機感を抱き「超高齢社会」という言葉のマイナスイメージから脱却し, 年を重ねることに幸せを感じられる社会を目指す
- ② 取組までの苦心・工夫
プロジェクトメンバーが, 職場で板挟みにならないための環境整備
限られた時間の中で, 最短を走る為にはどうすれば良いか
それぞれの個性を活かす工夫
引き受けた以上は, 期待以上のパフォーマンスを必ず出す

報告内容・実施したこと

(3)「おのみち幸齢プロジェクト」の特色と具体的な内容

① 特色

- *発想の転換（ポジティブな発想・逆転の発想）
高齡化のマイナスイメージを払拭
介護を必要とする高齡者の増加（マイナスイメージ）
↓
地域で活躍する元気な高齡者が増加（プラスイメージ）
- ・高齡化の問題は高齡者だけの問題ではない
- ・超高齡化の対策は他のテーマの解決にもつながる
高齡化と少子化，高齡化と環境，高齡化と観光・・・
- ・起業と連携
- ・スピード
- ・職員の意識改革
- *多様性を認めた多種多様な提案
地域性，趣味趣向・・・ある人には刺さってもあるひとには刺さらない
だから多様なメニューを提示，重ねて相乗効果を出していく（イベントと同じ）
- *組織の壁を超え各課が連携して実施
全市的な課題認識，組織横断的な取り組み

② 具体的な内容

高齡者の生きがいがづくり，健康づくり（介護予防），安心に暮らすための環境づくりをテーマに14事業を提案。

(4)「おのみち幸齢プロジェクト」の取組経緯と取組状況，力を入れていること

① 取組経緯と取組み状況

- H25. 9 尾道市超高齡化対策プロジェクトチーム設立
- H25. 12 提言
- H26. 1 着手可能な事業から，新年度予算に直ちに計上
進行管理を政策企画課で行う
実施に移すためのプロジェクトチーム設立（各課から選出）

② 力を入れていること

- ・住民意識をたかめること
元気でいきいき暮らすことが自分だけでなく，子供・孫，次世代の幸せにもつながるという意識
- ・健康づくり
環境整備（例・歩きたくなるようなまちづくり）・シルバーリハビリ体操の普及・ウォーキングイベント等の開催・プラス10分てくてく運動・減るSio運動・出たもん勝ち（閉じこもり防止）
- ・安心して暮らせる環境の整備
おのみち見守りネットワーク事業
- ・尾道市安全・安心メール



報告内容・実施したこと	(5)「おのみち幸齢プロジェクトの成果, 手応え, 今後の課題 ① 成果, 手応え (内部) ・脱セクショナリズムの流れ (少子化 PT・貧困対策 PT) ・若手職員の柔軟な発想の受け入れ, 職員のモチベーション UP, 意識改革, 連携・ ・プロジェクトを実施しなければ出来なかったであろう施策の実現 (おのみち見守りネットワーク) 高齢者増の増加・・高齢者福祉課の仕事は黙っていても増加の一途, それに加えて新たな課題, 困難な課題が矢継ぎ早に山積みで, 本来考えるべき問題を考えられない状態・・打破 (外部) ・市民の意識の高まり, 自発的な活動・ノルディックウォーキング・サイクリング・互助活動・・ ・企業等の「幸齢社会おのみち」実現に向けた機運の高まり・NPO 法人の設立・各種団体の連携・健康イベントの協賛・・ (6) 14 事業提案施策 (健康づくり) ・学校給食へ行こう・シルバーリハビリ体操・アラ還ピック 2020・目指せ! ウォー王 (KING) ・出たもん勝ち (高齢者の生きがいづくり) ・地域プロデューサー養成講座・復活! ・「ぱんこ」コミュニケーション・結成! 「ぱんこ」コミュニティ ・幸齢者学校・「幸齢者」保育士さん・笑顔とどけ隊・えんじやないか農 (安心に暮らすための環境づくり) ・おのみち見守りネットワーク・運転免許の返納推奨 (7)「おのみち幸齢プロジェクト」事業予算概要 <table border="1"> <tr> <td>H26 年度</td> <td>2,965 千円</td> </tr> <tr> <td>H27 年度</td> <td>41,5080 千円</td> </tr> <tr> <td>H28 年度</td> <td>15,7790 千円</td> </tr> </table>	H26 年度	2,965 千円	H27 年度	41,5080 千円	H28 年度	15,7790 千円
H26 年度	2,965 千円						
H27 年度	41,5080 千円						
H28 年度	15,7790 千円						
感想(まとめ)・市に活かせること等	・超高齢化に対応するために, プロジェクトチームの立ち上げ内容, プロジェクトチームの規約作成, またプロジェクトチームは各課より選出し, 課への配慮をして対応しやすい環境整備したこと ・短期間で 14 項目の提言をまとめたこと, 取り組み方は参考になった市へ提言できる ・具体的な提言, 施策はそれぞれの地域により違いはあるが, 提言内容を検討今後活かしていきたい						

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- 会派のぞみの「平成 29 年度予算編成に関する提言」の参考とした。
- 引き続き、会派として調査研究を継続する。

平成28年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	会派のぞみ (文責: 中島 武津雄)	支出伝票No.	
事 業 名	「反転授業による授業理解度と教員の授業力向上」への取り組み		
事業区分 (該当へ○)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的:どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

- ・学力向上はいつの時代においても求められるものであるが、学力向上を図るためにはまず「授業内容をいかに理解できるか」がポイントとなる。通常、授業の理解度を向上させるために宿題(復習)を小学校・中学校では行なっているが、丹南中学校ではその宿題を反転させ復習ではなく予習(DVD)によりあらかじめ理解できた点、理解できなかった点を確認し授業に臨ませている。
- ・丹南中学校における反転授業の狙いと効果について調査し、今後の飯田市における ITC を始めとする教育活動の一助とする。

(2)実施概要

調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	日 時	訪問先・主催者等
	平成28年10月26日(水) 9時00分～10時30分	兵庫県篠山市 篠山市立丹南中学校

1 視察先(市町村等)の概要

日本遺産のまち「丹波篠山」デカンショ節で名高い篠山市は、平成11年4月に旧多紀郡の篠山町・西紀町・丹南町・今田町が合併し誕生した。平成28年4月時点の人口43,000人・面積377k㎡であり、市の中心部には篠山城跡と城下町のまちなみ、市東部の福住地区にはかつて京都へ上る宿場町として栄えたまちなみが現存しており、ともに国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

特産品としては丹波栗・黒豆・黒枝豆・丹波牛・ぼたん鍋など農産物と、酒造りに欠かせない丹波杜氏の里として有名である。近年は日本遺産登録第一号としても注目され年間180万人の観光客が城下町・宿場町などの歴史文化を残す建造物やまつり観光に訪れている。

2 視察内容

篠山市立丹南中学校校長の赤井敏博先生が前任の篠山東中学校で取り組んだ反転授業について、移動した丹南中学校でも取り組んでおり、現在では市内5中学校でも反転授業研究推進会議で共有化している。

導入の経緯と子供たちの反応や保護者との関係などと成果について研修をさせていただいた。

●お話を頂いた主な項目●

- ・反転授業による授業理解度と教員の授業力向上に向けた取り組み
- ・学習内容を活用し、深め合う授業展開の工夫について
- ・映像教材等の補助教材を活用した予習の習慣化を通じて
- ・反転授業でアクティブ・ラーニング
- ・ICTの効果的な活用についてと課題



報告内容・実施したこと

- ・動画を子供たちに届ける方法(家庭で予習するために)
インターネットで動画サイトを利用する。(パスワード設定により外部からの閲覧はできない)
インターネットの無い家庭はDVDで渡して予習
- ・配信するのはいつか

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- 会派のぞみの「平成 29 年度予算編成に関する提言」の参考とした。
- 平成 28 年第 4 回定例会（代表質問）にて吉川秋利議員が「教育について」として質問を実施。
- 引き続き、会派として調査研究を継続する。